



小諸新校とまちづくり

第5回

小諸新校 再編実施計画 懇話会



令和3年5月24日

於：小諸市庁舎 3F 第1・第2会議室



埼玉県 狭山市 教育委員



西村 廣一

はじめに

学校が元気だと まちも元気です
まちが元気だと 学校も元気です

学校が変われば まちも変わります
まちが変われば 学校も変わります



《学校と地域との連携の必要性》

I . 認知能力と非認知能力

1) 今の教育に必要なこと

①認知能力：測定しやすいもの
(学力・IQ等)

②非認知能力：定義や測定がしにくいもの
(判断力・コミュニケーション力等)

◆生きる力 = ①認知能力 + ②非認知能力

I . 認知能力と非認知能力

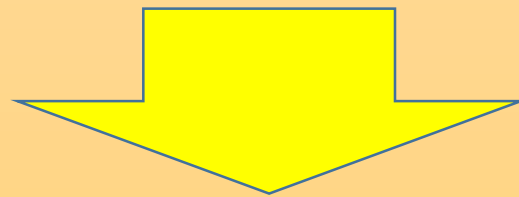
2) なぜ非認知能力がより大切になっているか

- 解が一つではない、見つけにくいこの現代を生き抜くために
- 今までの社会は、会社に入ってから研修
今、これからは、即自分で判断し対応することが課せられる

I . 認知能力と非認知能力

3) 非認知能力を育むために必要なこと

○学校だけで育むことは難しい、色々な場を経験する、色々な人と触れ合うことが必要

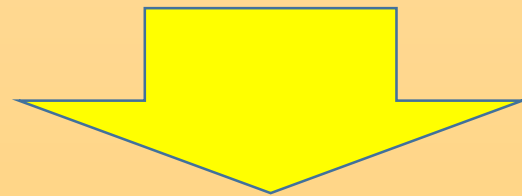


地域連携の重要性

Ⅱ. 子ども一人ひとりに合った教育

1) 子どもの能力は一人ひとり違う
(一人ひとりに合った教育が必要)

○学校だけで対応するのは厳しい、色々な眼で見ることが必要

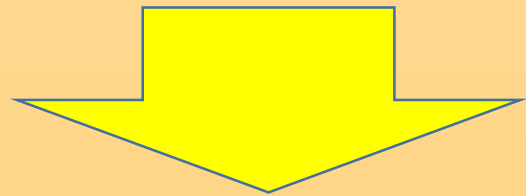


地域住民の力が不可欠

I + II を達成するために

1) 地域とともに歩む学校が必要となる

- 小諸市内唯一の高校 ➡ より深い連携が必要
- 新校は小諸市の広告塔（例＞合唱・吹奏楽・野球・サッカー・レスリング等、「小諸そば」＝宣伝効果大）

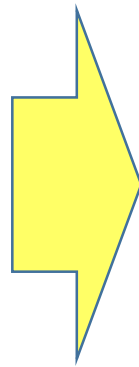


小諸新校は「まちづくりの一環」市民意識の共有
➡ 「小諸市の高校である」という、強い市民意識

I + II を達成するために

2) 小諸新校による「まちづくり」を考える

学校
+
まち
協働



コンパクトシティーの一環
子どもたちが、まち中で、
色々な場面で色々な人と一緒に
活動する学校

様々な連携の可能性

1) 行政との連携

- ① 「小諸未来義塾」をさらに発展させる（市内マップ、観光ガイド、ICT活用し小諸市から発信）
- ② 小諸図書館を活用した授業の展開
- ③ 市議会傍聴により、政治の仕組みを学習
- ④ ステラホールで校内演奏会（生徒と市民の一体感）

様々な連携の可能性

2) 民間との連携

- ① **就業体験**（体験だけでなく、入所の動機や出身地域等、日本の介護事情を学ぶ）＝複合的な学習展開
- ② **民間人講師による授業**（IT関連は特に注力し、IT人材輩出を目指す、会計事務所と連携した具体的な会計実務の学び）等

様々な連携の可能性

3) 小中学校、大学との連携

① 小中学校 ⇔ 高校 ⇔ 大学 連携

(長野大学・松本大学・高崎経済大・前橋国際大等)

② 小諸市内中学からの志願者を増やす = ファンの獲得

③ 「音楽のまち」を充実させるため、小中、大、地域との連携した音楽活動

様々な連携の可能性

4) その他

- ① 地域資源（場所・人）を活用した、部活動
（市民による部活動の見学機会をつくる）
- ② 小諸学（歴史・文化・自然）全員が学び市民に報告
- ③ クラウドファンディング、ふるさと納税で資金調達
- ④ 地域連携室を市役所に設置
- ⑤ オンライン授業拡大（外部講師・不登校対応等）

心がける大切なこと

- ①前例を踏襲しない 新しい発想が改革を生む
- ②否定から入らない 諦めない どうすれば？を考える
- ③想像力を活かす 思いをめぐらせ2手先、3手先
- ④努力は夢中に勝てない 夢中をみつける
(ワクワク・ドキドキ)
- ⑤全ての教科を大切にしてい 感性を育む

～～市民と小諸新校の一体感～～

市民は小諸新校の応援団

高校生は地元を学び、地元を愛し、そして地元に戻ってくる！



ありがとうございました



埼玉県 狭山市 教育委員

西村 廣一